書式７

助成番号	２０－Ａ１７

成　果　報　告　書

記入日　2023　年 3 月 10 日

フリガナ（モリタ　トモエ） 氏　名　森田　智惠	渡航先国名・地域名 大韓民国・ソウル	留学先の所属機関：高麗大学校民族文化研究院 帰国後の所属機関：同志社大学大学院

研究テーマ：
1930 年代植民地朝鮮における観光の社会史的研究

研究期間　：　2021 年 5 月 ～ 2022 年 2 月 （ 1 年 10 ヶ月）

研究成果（概要）

本研究は、1930 年代の植民地朝鮮における帝国日本の観光開発の実態とそれが植民者/被植民者に与える影響を検討し、総動員体制形成のために動員された文化政策のあり様と差別が折り重なる植民地社会の諸相を明らかにした。その成果を日本国内・渡航先の韓国で口頭発表し、韓国で論文を公表した。

研究成果（詳細）

〇資料収集および研究ネットワーク構築

資料収集は、おもに韓国国立中央図書館および所属の高麗大学校図書館にておこなった。また韓国民俗博物館坡州分館など、韓国に長期滞在していなくては資料収集が難しいアーカイブ機関に足を運ぶことができた。COVID-19 の拡大以降、個人の動線追跡やアーカイブ機関の予約システムが高度化されたため、住民登録番号が無くてはさまざまな場所にアクセスできない状況が多々あったが、長期滞在で外国人登録をおこなっていたため、とくに不自由なく資料収集をおこなうことができた点も留学だからこそ得ることができた大きなメリットだった。

歴史問題研究所という朝鮮近現代史を専門とする大学院生から若手研究者が在籍する研究拠点の研究会にいくどか参加するなかで、研究ネットワークを拡げることができた。また、そのネットワークから派生して韓国現代史専攻の大学院生たちとフェミニズム関連の読書会を起ち上げ、定期的に現代韓国社会について議論する場を得たこともよい経験だった。現在わたしは近代を時代背景とする研究をおこなっているが、そのような場をとおして近代のみならず現代まで広い視野で朝鮮半島の歴史を考える機会となった。また韓国社会のフェミニズムに関心をつよく持っていたため、積極的にフェミニスト団体とかかわるようにし、活動家たちと関係を構築するなど、歴史学にとどまらない広い人脈を構築することができた。

これらの活動は韓国に長期滞在し肌で感じながら、自身の行動をその都度考え取捨選択した結果であるが、その過程自体が今後の研究者生活にとってとてもよい影響を受けたように思う。つまり自身をまったく知らないひとばかりの数多あるコミュニティに出会うなかで、自身がなにに関心がありどのように行動すればよい人間関係および研究協力関係をつくれるかを学ぶことができたからである。このようなことは、ただちに研究業績になるものでも数値化できるものでもないが、間違いなく今後の研究生活に響いてくるだろう。

〇研究報告

・「1930 년대 조선관광의 단초 -경성관광협회의 활동을 중심으로」 제 6 회 민연 젊은 한국학 아카데미 2021 年 8 月 6 日

「韓国学アカデミー」は 5 日間におよぶ研究会で、韓国での所属機関である高麗大学校民族文化研究院が主催したものである。歴史学のみならず人類学や文学など専門、所属も韓国・北米・日本などバックグラウンドが多様な研究者に出会うことができた。報告時間とフィードバック時間が短かったために、報告にたいしてよい成果を得ることができたとは言いがたいが、韓国語での研究報告をおこなう経験を積むことができた。

・「夜を視察する――1930 年代植民地朝鮮における京城観光協会の活動と日本人観光客 」京都コリア学コンソーシアム 第 76 回研究会 2022 年 4 月 8 日

本報告は、朝鮮近代史研究が活発な京都を拠点として開催される定期研究会で、Zoom をとおしてソウルから報告をおこなった。報告内容は 1930 年代の朝鮮観光と日本人観光客の動向を、とりわけこれまで等閑視されてきた、昼ではなく夜に観光客がなにをしていたのかに注目し、フェミズムの視点から朝鮮観光を捉えなおしたものである。これまでの朝鮮観光研究は、観光客がいかに朝鮮社会および朝鮮人への差別意識を内面化していたかを明らかにする研究、あるいは鉄道網といったインフラと観光事業の拡がりがいかに不可分な関係にあったのかに研究が集中してきた。本報告では、①そもそも朝鮮観光の主体がジェンダー化かつ階級化されており実業家日本人男性が多く、女性は女子校の修学旅行など目的のある訪問にほぼ限定されていた点を指摘した。また男性観光客の動線を丁寧にみていくと、夜には遊廓やカフェーなど性的サービスを提供する場所への訪問が普遍的になされていた事実を明らかにした。②植民地朝鮮で首都の役割を担っていた京城で 1933 年に設立された京城観光協会が発行したメディアを検討することで、観光協会といった半官民組織が観光客を遊廓や女性が接客をおこなう飲食店に誘導し、植民地当局および京城府の税収を増やすためのキャンペーンをおこなっていた点を明らかにした。③男性／女性日本人観光客の旅行記を検討することで、観光経験が女性・男性とで異なっていた点や、遊廓や料理店での性的サービスをどのように観光客が捉えていたのかを明らかにした。

これらの分析をとおして、従来の観光研究で注視されてこなかった植民地観光の特色、つまり民族間の差別のみならず、ジェンダーおよび階級が交差的に重なりあう差別を根底に内在させた文化的行為である点を指摘した。またそのような作業をとおして、文化史的観点からの研究が十分でない 1930 年代の朝鮮社会のあらたな様相を浮かびあがらせることができた。本報告は現在、論文を執筆中であり近いうちに日本国内の学術誌への投稿を予定している。

〇論文投稿

・「식민지 조선의 관광산업 형성 — 1930 년대 경성관광협회의 조직과 활동」『역사문제연구』 50, 2023 년 3 월

本論文は 2020 年 12 月の朝鮮史研究会および 2021 年 8 月の韓国での報告のフィードバックをうけて、論文化したものである。これまでの植民地朝鮮観光の歴史学的研究では、朝鮮総督府が観光政策を打ち出し観光事業を主導してきたかのように論じてきた。ただし実際には日本本国や満洲と異なり、朝鮮総督府は観光行政機関を独立させて設けることはなく、朝鮮総督府鉄道局のなかに観光斡旋と宣伝をおこなう部署があったに過ぎない。実際に一貫した政策があったわけでもないにもかかわらず、植民地当局

にばかり注目することはややすれば植民地当局の権力性を過大評価し、その権力と影響力を絶対的なものととらえる陥穽にはまってしまう。そこで本稿は、京城府と京城商工会議所が共同で発足させた京城観光協会に注目し、そのような植民地当局より低位の権力集団の設立過程と目的を明らかにすることで、植民地当局を中心にした朝鮮観光史研究の見直しを迫った。そのような中間的権力に注目し、その実態を明らかにする本稿のような研究アプローチは、近年大韓民国での朝鮮近代史研究においても蓄積が増えつつあり、観光史研究にとどまらないものである。

なお本稿がはじめての韓国語での論文投稿となった。本稿が掲載された『歴史問題研究』は、歴史問題研究という朝鮮近現代史を専攻する研究者たちがつどう一大研究拠点が一年に三回発行している学術誌であり、韓国の朝鮮史研究者であれば知らないものはいない有名誌である。そのようなジャーナルに論文を掲載することができ嬉しく思ういっぽうで、外国語で論文を書くことのむずかしさを痛感した。他方でこのような経験は、今後いかなる言語で書き誰に読まれたい論文なのかを意識しながら研究を進めることにつながるので、非常によい経験となったように思う。

〇韓国語書籍翻訳

황유나「남자들의 방 남자되기, 유흥주점, 아가씨노동」오월의봄, 2022 년 2 월；ファン・ユナ『男たちの部屋：男性になること、遊興酒店、アガシ労働』2023 年刊行予定

本書のタイトル『男たちの部屋』が示すように、本書が主題とするのは社会で主流な存在である（異性愛主義）男性たちがあつまるオンライン・オフラインを問わない部屋・諸空間でなされるホモソーシャルな行為と、その空間で女性がいかなる立場に置かれているのか、はたしてそれはどのようなシステムにより維持されているのか、である。本書は、ソウルにある反性売買人権行動／性売買被害支援相談所イルム（이룸）で二〇一三年から二〇二二年までの十年間にわたって仕事をしてきたファン・ユナによるものである。

わたしは日本で紹介されている韓国フェミニズムの潮流に違和感を覚えており、かねてより韓国現地で同世代から支持をうけているフェミニズムを日本に紹介したいと思ってきた。本書は、韓国現代史専攻の院生たちとの読書会のなかで話題にあがり、一読して翻訳しようと心に決めた。なぜなら、本書のアプローチが冷静で現実的なものだと感じたからである。ここでわたしが現実的というのは、性売買をめぐる現在進行形の暴力的で熾烈な状況にたいし、すぐに解決策を提示しない／できないために必要とされる忍耐と、韓国社会の文脈にあわせた介入の方法を手さぐりでブリコラージュしていこうとする知的態度と実践・運動を指している。現実はただちに好転するわけではなく、日々の運動と知的活動のいずれかがあればよいというのでなく、ねばり強く両輪を回していく必要があるのだということをわたしは筆者から学んだ。韓国社会の性産業・セックスワークをめぐる現状が現代日本社会のそれとだたちに重なりあうわけではないが、本書のアプローチの方法がひとつの参照点になればと思い、翻訳に取り組んだ。

また本書の内容は、自身の研究にも大きな影響を与えてくれた。近代植民地朝鮮観光において男性たちが夜に宴会をおこない芸妓や妓生と遊ぶ行為はよくなされていたものの、これまで十分に検討されてこなかった。『男たちの部屋』の分析ツールは、時代は異なるものの自身の研究にも援用できると考え、京都コリア学コンソーシアムの発表報告の際にも本書を引用した。本書は今夏に刊行予定である。

留学中の生活・研究でのトピックス

〇ウクライナ侵攻と物価上昇および日韓間レート率

ロシアによるウクライナ侵攻以降、全世界的に顕著に物価上昇が起きているが、韓国も同様にこの二年間で物価と光熱費等公共料金および不動産価格が大幅に上昇した。かつ円安の進行により、円から韓国ウォンに換金する際にはレートが低い時期を避けるなど、懐が厳しくなっていくことを肌で感じた。いまや東京よりソウルのほうが物価高となっているといえる。ソウルに住む際、寮以外で生活しなくてはならない場合には月二〇万円は見積もる必要があるだろう。

左写真は、ウクライナ侵攻がはじまって間もなくの頃、「戦争のない世界」という韓国軍への徴兵忌避者たちによる社会運動団体が主催した反戦デモに参加したときのものである。ロシア大使館近くのキリスト教系協会に集合し、ソウル中心部のソウル市庁周辺の大路を一周する大規模なデモであった。

〇同世代のフェミニストたちとの出会い

現代韓国社会の性産業にかんする書籍の翻訳をおこなう過程で、フェミニスト団体の活動家に出会いともに読書会をおこなったり、書籍の出版イベントにもしばしば参加し交流を深めた。

渡航以前はあまり考えなかったが、フェミニズム的観点と分析方法を自身の研究テーマの大きな軸としてとりいれることで、既存の歴史叙述に介入することができるのではないかと考えるようになった（それは上述したように、研究報告と論文執筆に活かされている）。直接的に自身の研究にかかわる資料やアーカイブ機関のみにアクセスするのではなく、すこしでも関心がある隣接領域があれば、積極的に手を伸ばすべきだということを学んだ。

今後の社会貢献

〇研究活動—博士論文の完成および後続研究としての韓国現代史・「キーセン観光」

直近の目標は、博士論文の執筆である。植民地朝鮮観光という視点から朝鮮社会の差別構造を具体的に描き出そうとすることが博士論文の目標であり、その作業をとおして植民地主義にたいする批判をおこなうことができると考える。また後続研究として、1965 年日韓国交正常化以降、日本人観光客が韓国を訪問し、女性たちを性的に買う「キーセン観光」というセックスツーリズムが盛んになされるようになった潮流について、なぜそのようなセックスツーリズムがビジネス化しその規模を拡大させていったのかについて研究を進める予定である。これはフェミニズムの観点から日韓関係をとらえなおす作業となり、ポストコロニアルな状況にたいする批判ともなるだろう。

〇翻訳活動—フェミニズム関連書籍の翻訳・出版

現地で同世代のフェミニストと話しながら、日本に輸入されている「韓国フェミニズム」と韓国で主流のフェミニズムとでは、ややズレがあるのではと感じた。そのようなズレにたいし、今回同様に韓国語書籍を翻訳し日本で出版することで、現代韓国社会の現状を日本に紹介していくつもりである。